



うさ本ファミリー

楽しく子育て!

～子育て支援コーナー通信～

第98号

発行日

2015年7月19日

(毎月19日刊行)

司書のオススメ本

～和食のレシピ本～

<企画展示コーナーから選んでみました>

職場復帰してから姑が料理してくれる機会が増え、おふくろの味は家ごとに違うんだなあ実感しています。味噌汁にズッキーニが入っていたり(あっさりしておいしいです)、郷土料理があったり。

例えば、鯖の押し寿司。西讃の私の実家はいつもばら寿司だったので、押し寿司の具は鯖だけ?とふしぎに思っていました。でも何度か食べているうちに、甘酸っぱい酢飯と鯖の味がやみつきに。娘も大好きで、春になると、そろそろおばあちゃん作らないかなあと楽しみにしています。いつも作ってもらってばかりなので、来年こそ、娘と一緒に作り方を習おうと思います。(H)

新しい本が
入りました。

()内の数字は
棚の番号です

『これがわかれば夫婦
はぜったい仲良くなれる
賢い人の言い方・伝え方』

吉岡愛和/著
コスモ21/刊

2015.6

(支援1-1)

『ホットケーキで
「脳力」が上がる』

川島隆太/著
小学館/刊

2015.6

(支援2-3)

『むずかしい子を育て
るペアレント・トレー
ニング 思春期編』

野口啓示/著, のぐ
ちふみこ/イラスト

明石書店/刊

2015.6

(支援3-3)

『おやこで自転車はじ
めてブック』

ぼちぼち自転車くら
ぶ/著, 疋田智/監修

子どもの未来社/刊

2015.6

(支援4-1)

<おすすめbook>

『子どもとつくるたのしい和食』

栗栖正博/監修

平凡社/刊

『まいにちの和食 まず覚えてたい定番の味と
季節の一皿』

荒木典子/著

KADOKAWA/刊

『おばあちゃんの台所 元気に暮らす健康レシピ』

テレビせとうち『おばあちゃんの台所』プロジェ
クトチーム/編

イースト・プレス/刊

企画展示

「おいしく食べよう! 和の食事 ～親子で食育～」展

子育て支援コーナーにて、平成27年8月23日(日)まで開催中!

子育て応援団を紹介します。 第4回

高松短期大学 保育学科 准教授 田中弓子先生②

高松短期大学保育学科准教授の田中弓子先生にお伺いしたお話の後半を掲載します。

Q3 先生には現在、2歳のお子さんがいらっしゃいますが、実際に子育てされてからの、研究に対する考え方の変化はありましたか。

A : 子育てと仕事の両立はやはり大変です。事情があって、子どもが9か月目の時に職場復帰しました。夫・両親が傍で助けてくれることに加え、保育学科の先生方や大学事務方のご支援を受けながらなんとか現在に至ります。本当に感謝していますが、わが子に負担を強いていることはないかと考えることは多いです。

出産を機に、研究テーマや研究対象（子育て家庭）についての見方が深まったと思います。自分自身が当事者（仕事をしつつ子育て中の母親）になることで、子育てに仕事に苦悩する母親の発言にその思考形式も含めて、寄り添うことができるようになりました。ただ、研究は客観的な視点を常に問われているので、研究対象者と私が、同じ境遇にあるとはいえ、冷静さを忘れてはいけないと思います。

冷静さが重要という点では、授業においても同じです。「親がこう思っているから、こういう保育者になってほしい」という思いがどうしても強くなってしまいます。そんな自分を客観的に見たときに、子どもを持っていなかったときの方が、授業者としては良かったという部分があります。子育てで経験した良いところを活かしながら、冷静さも忘れずにとっています。

Q4 先生の理想の保育者像は

A いつも保育学科で言っていることではありますが、相手の立場に立って物事を考えられる保育者になってほしいです。子どもや保護者が何をいつも思い、何を訴えているかを気づける人になってほしいですね。そして、謙虚で一生懸命な保育者になって欲しい。人間だから、苦手な部分も持っているとは思いますが、謙虚で一生懸命な保育者は、保護者・子ども・同僚など周囲の人から支えてもらえ、大きな成長ができます。保育技術以前の人間的な部分だとは思いますが、そこを持ってほしいと思います。保育者は、親以外に出会う初めての大人なので、子どもに与える影響が大きいと思います。お父さんお母さんが持つ優しさも必要ですね。

Q5 子育て中の方へのメッセージ

A 私自身、家族や周りの方に支えてもらってなんとか今があるので、言いにくいのですが・・・、保護者の方の子育ての環境や考え方は様々で、一つではないと思います。そのため、必ず子育てはこうしてくださいというのは難しいです。ただ、それぞれの保護者の方の置かれた環境や考え方を支持してくれる人をたくさん作ってほしいと思います。話を聞いてくれる、手伝ってくれるなど方法は何でもかまいませんので、ホッとすると、充実するような時間を過ごせる人を見つけてほしいです。

保育者と親に共通していることは、「子どもを第一に考えよう」ということです。子どもを第一に考えられる環境を作り出すためにも、自分の考えを支持してくれる人を作りたいと思います。

(インタビューした日：2015年2月5日)

社会のなかの
子どもと保育者

小堀哲郎(編著)



田中先生が分担執筆された本。

『社会のなかの子どもと保育者』小堀哲郎/編著
創成社/発行

編集後記 いよいよ夏休みですね。今年は、夏休みが始まる前から、土日には、夏休みの宿題用らしき本を探す親子連れを多く見かけました。他の職員によると「今年から夏休みを短縮した自治体が多いせいでは」とのこと。なるほど！子どもが来年から小学生なので、見習いたいと思います(汗)。(T)